

2月臨時運営委員会の資料及び議決内容の修正提案

～「本部の役割」「オブザーバー参加」「30周年記念資料編」について～

運営委員 竹内 純一

経緯

2月28日の運営委員会の討議内容を多摩・田園の定例会で報告した際、「本部の役割」「運営委員会へのオブザーバー参加」「30周年記念資料の掲載」に関し、臨時運営委員会とは異なる意見が大勢を占めた。これらの意見には傾聴すべき点が多いと思われるので修正提案としてまとめ、提出する。

1. 本部の役割について

- 1) じゃおクラブの組織運営や本部のあり方においては、会員ファースト、地域じゃおファーストの考え方を基本にしたい。この考え方に基づくと、臨時運営委員会議事録に記された結論には曖昧さや理解しにくい記述が含まれている。この点を次のように修正したい。
 - (ア)「方針の提案と決定(総会)、対外窓口、広報活動(HP)」⇒「総会の開催・運営、対外窓口、ホームページ運営」
 - 方針は会員や地域じゃおの意見を汲み取って運営委員から運営委員会に提案されるものであり、本部が方針を提案するものではない。決定は総会でなされるので、本部は事務局として運営を行う立場と考える。
 - 広報活動(HP)と記すと、広報活動全般に取り組んでいるかのような誤解を与える。これまで本部は広報活動をやってこなかったし、広報活動を実施するにはそれなりの体制と労力を必要とするので、ホームページの運営としたほうが実態に合っている。
 - (イ)「地域じゃお間の緩やかな統合の象徴および調整機能」⇒「地域じゃおからの要望に対する調整」
 - 元の文章では具体的に何を行うかがわかりにくい。会員ファースト、地域じゃおファーストの考え方に基づき調整機能に重きを置いた記述に変更したほうが理解しやすい。
 - (ウ)事務局機能(会員管理・会費徴収・会計・業務監査)⇒原案通り変更なし
 - (エ)会員横断的なイベントやコミュニケーション(サロン、ニュース)⇒原案通り変更なし

2. 運営委員会へのオブザーバー参加について

- 1) 会員に運営委員会を知ってもらう目的で「傍聴」として提案された「オブザーバー参加」であるが、会員が直接、運営委員会に意見を伝える場として積極活用したい。
- 2) オブザーバー参加を実施する際は、議案書をHPに掲載するなどして事前に公開することを提案する。これにより、会員は議案書を見て、意見を運営委員に伝えるなり、オブザーバー参加を申し込む仕組みが完成する。さらに、より運営委員会の透明性が高まる。
- 3) オブザーバーは「議決権はないが、参考意見を述べることができる」ように変更したい。現在は、会員が直接、運営委員会に出席して意見を伝える機会がないため、会員の意見が運営委員会に反映されない例もあると思われる。「参考意見を述べる」ことは、会員が、意見を直接、運営委員会に伝える機会となり、会員ファーストの実現に役立つ。

3. 30周年記念の資料編の掲載方法について

- 1) 会員にとって、過去の資料は、歴史を振り返るアーカイブとして貴重な情報である。一方、じゃおニュースのもう一方のターゲットである一般に対してじゃおクラブの活動を告知する意味での価値は低い。
- 2) 上記の考え方にに基づき、資料集としてまとめ、本部ホームページの「会員ページ」に長期保存することを提案する。これによって、以下のメリットを得ることができる。
 - (ア)長期間にわたって掲載したままにできる。(じゃおニュースの掲載期間は最大2年間で、その後はアーカイブとして担当者が保管している。)
 - (イ)見たいときに、いつでも資料にたどり着くことができる。(例：じゃおニュースとして発行すると、見たいときに何号に掲載されていたかを探すことになる。)
 - (ウ)運営委員の氏名など一部に個人情報が含まれるが、パスワード保護によって、個人情報を守ることができる。
 - (エ)一般公開しないので、会員だけをターゲットに制作することができる。
- 3) 非Eグループ会員には、発行時に印刷したものを届ける。